

<p>&lt;保育目標&gt;</p> <p>手と手と手と みんなの力で “ WE LOVE 竜神”</p> <p>ゆったり ・わくわく ・ときどき“楽しいこども園” 『発見』『もっと』『楽しい』『すごーい』を見つけよう</p>
<p>&lt;目指す子ども像&gt;</p> <p>た：たくましい子    つ：つよくやさしい子    の：のびのびと表現する子    こ：心豊かな子</p>

<園の強み> 昨年度の効果

- ・多いためいろいろな意見が得られるとともに行事の準備が分担しやすく手助けしてもらえたり、協力し合ったりできる。
- ・活気がある。明るく活気がある。保育者同士仲が良い。
- ・職員の数が多いことで子どもの要求に合わせて対応できる。
- ・こどもの成長を共感できる。
- ・子どもの元気が良い。
- ・地域の方と交流が多くあり、たくさん経験ができる。
- ・職員会を増やしたことで保育内容がより具体的になりわかりやすくなった。朝礼ノート、看護師ノートは共通理解ができ、忘れないので生かせる

<園の弱み> 今年度の課題

- ・人数が多いがゆえに報・連・相が行き届かない。特に、パートの職員まで伝わらないことがある。職員会等で意見が出しにくい。
- ・学年会が少ない。学年で話すことが少なく説明がわかりにくいことや分からないことがある。
- ・若い職員が多いがゆえに経験が浅く話し合いも不十分。他人任せになりやすい。全く話したことがない職員もでてします。
- ・人数が多いため使ったものが元に戻らなかつたり、机の上に物が置きっぱなしになったりして無責任になりやすい。

園舎が古いために見た目が見えなくなっている。保育者としての身だしなみが乱れている

A<改善>

<園の強み>

- ・子供優先の保育で子どもたちが元気
- ・職員同士の雰囲気良く団結力が強くなった（話し合いがしやすい）
- ・クラスカラーがあり、クラスごとに工夫がなされている。
- ・子供が生活しやすいように環境の工夫がなされている。
- ・人数が多い分、行事の準備が協力し合える（協力し合うことで園舎がきれいになった）
- ・地域との交流があり、地域の方の優しさに触れるとともに野菜、稲等の生長過程と一緒に経験させてもらえる。
- ・ホームページ、見える化の写真掲示により保育内容を家庭に伝えると共に子どもの成長がわかり合える。

<園の弱み>

- ・職員数が多いがゆえに、人任せになったりやりっぱなしになったりしやすい。
- ・職員の幅が広く、保育観や価値観の違いがある。
- ・乳児担当と幼児担当の思いの差があり幼児の思いが通ることが多い。
- ・経験が浅いのに学びの場が少ない。
- ・遅番、早番、パート等朝礼ノートを見るが、朝礼の雰囲気は伝わらず、内容も不明である。
- ・経験の多い先生に意見が言いにくい
- ・安心して遊べる場や公園、広場がない。
- ・乳児と幼児の思いの違いがあり行き違いになりやすい。

<重点努力目標>	P <内容>
① 子どもの最善の利益を実現するため、保育の在り方を考え、幼保連携認定こども園における保育の質の向上を目指す。(保育の質向上部会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研究の充実を図りテーマをもとに保育内容の理解を深め指導計画、研究保育、『エピソード』記録の分析等を通して、保育者の指導力の高め方、子どもへの関わりの在り方を学び合う。</li> <li>・若い職員の保育内容の向上を図るために学年会、リーダー会をもとに、指導要領の内容をより具体的に浸透できるようにする(ビデオ、写真を通して3本の柱、10の経験してほしい姿など考える機会を作る)。</li> <li>・子どもがワクワク、生き生きと活動に参加できるよう環境構成の充実を図り、その内容結果を確認し合い、保育に活かす。</li> <li>・新任研修を充実していくと共に、中堅者も積極的に園外研修にも参加し自己研習に努める。</li> </ul>
② 保育者、保護者、地域が協力し合うことで活力ある園を目指す。保育の内容における具体的なねらい及び内容にせまりより深く理解する(みえる化部会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と保育師の関係を強化するため、親近感をもてる取り組みを講じる。職員紹介写真にメッセージを加えるなど保育者のことを知ってもらふ。保護者会との連携を密にとり、苦情、意見を受け止める機会を作り反映していく(対保護者)</li> <li>・地域とのコミュニケーションを可視化し園と地域との関わりを保護者にも周知し保護者と地域の関係性も強化する。園・保護者・地域が三位一体となる情報共有をする(対地域・竜神地区コミュニティースクール参加 米作り、かかし作り体験)</li> <li>・写真紹介、地域だよりによる園紹介、子育て支援 苦情対策表示等で園の理解に努める。</li> </ul>
安心安全に繋がる危機管理体制活用の徹底と強化を図る。(安全衛生部会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気やけがの予防や応急処置の方法を共有する。アレルギーや薬管理について情報の共有と強化を図る</li> <li>・場研修及び各部会、朝礼において危機管理について学び合うとともに記録をつけることにより怪我の起きやすい場所、怪我の起きやすいタイミング、間の分析を行うとともに園児にも安全指導を浸透させる。</li> <li>・視覚化した園内外のヒヤリハットをより見やすくする。(散歩コースの図示化、危険場所の共通理解。)</li> </ul>

C 総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回ビデオを用いたことで、全員の意見を聞いたり、保育を見つめ直したりすることができたことは効果であった。自分が見られるということと記録に残るということは負担になる部分もあるが、保育内容、環境の考え方について考える良い機会であった。また、いろいろな考え方があり、いろいろな方向から見るとということも考えさせられた。</li> <li>休憩時間を利用し、映像をみたり、フランクに意見を言い合ったり、することで考え方の違い、見方などに気づくことができた。</li> <li>・新型コロナの流行により、行事がいろいろ無くなったために、実施できる行事や捉え方などじっくり話し合えたり、実施したりできたが、来年が同じであるとは限らないので、必要なことはしっかり煮詰めておかなければならない。(例えば 園内研修の持ち方、研究保育の持ち方、ビデオをとるためのポイント、行事の持ち方保護者対応等々)</li> <li>・見える化に関しては、それぞれが各クラスの面白い、伝えたい活動を撮ってきた。子どもを見つめる良い機会なので今後も続けていくが、1回だけでなく年間通して掲示していけるとよい。安全に関しては、みんなの目で危険箇所を排除していかなければならない。大型木製遊具を職員全員で修繕したり、園全体を見直せたりしたことは良い機会であった。動きも活発で外で遊ぶ子どもが多く外環境を考慮していきたいと考えている。</li> </ul>

1 期	
D 実施	C 評価
① リーダー会、学年会の充実により、カリキュラムの内容の共通理解をきちんと話し合いを大事にした指導案を作成する。写真、ビデオにより研究保育や事例のカンファレンス、見直しを共通理解。若い職員の学びの機会	・リーダー会は行事内容が中心で中々リーダー育成になりにくい。もっと具体的にカリキュラムまでおせない。連絡事項が中心になっている。研究保育を、ビデオに録りその内容からカンファレンスや保育の見直しをすることは効果的である。
② 本町有志による米作りのかかわり、行事の呼びかけ、招待によるかかわりいろいろな人のかかわりを学ぶ。保護者の苦情は解決策を表示し、相談等を職員全員が共通理解する(対応も伝えていく)写真、ビデオ等も活かしていく。	見える化に伴い、ホームページを利用し園内での活動内容の意図を伝えるようにした。それにより職員が意欲的に取り組み職員の学びにもなった。(コロナでの自粛中に行ったことでそれが意欲的になった)コロナの影響で地域との触れ合い行事はなくなったが本町との行事は継続的に実施していくことになった
③ 看護師さんによる、安全衛生は月ごとにねらいを持ち共通理解する怪我の場所、ヒヤリハットなど立ち会った人が記録報告しまとめ考察する(要因、場所注意点)散歩コースの図示化 危険箇所	安全衛生に関しては、看護師により月計画の基全員に実施。怪我や、病気に関しての傾向や予防方法等担当者から朝礼時に報告し浸透されてきている。散歩マップも作成し、掲示した。コロナ関連の物資が不足気味

2 期		
A 改善 & P 計画	D 実施	C 評価
ベテランと若い先生との保育観の違いを埋めるためにはお互いに意見が言える環境が必要である。ビデオ視聴を休憩中に取り入れ、自由に意見が言える雰囲気を作っていく 保育の質の向上という点に視点を当て学び合う気持ちを向上させる	・休憩時間を利用し研究保育の内容を全員で見えるようにし見ながらフランクに意見を出し合えるようにした。またその中の問題点を取り上げ話し合いの内容を統一しいろいろな角度から討論、分析をする機会を作った	話し合いになるとどうしてもベテランの意見が支流になる各自が文字にまとめたものを一覧にして全員が見る形にしその中から問題点をとりあげるようにする。
見える化においては、園での活動がどのように行われ保護者にどのように伝わるか月ごとに当番を決めクラスの様子を活動ごとにねらいや経験している内容を家庭に伝えられるようにホームページや保育室玄関等に掲示する。	夏季保育中は担当が変わりプール遊びが主の為スムーズに進まないことがあった。ねらいや内容の意図が伝わりやすように記録におさめる。乳児組は延長児多いため保育室の目につく場所に掲示する。	新型コロナが流行し保育活動が制限され、行事が中止になり子どもたちに体験してほしいこと、家庭に伝えたいことが制限されてしまった。行事の持ち方の工夫、伝え方の工夫必要である。
安全に関しては毎月怪我、病気等治療対応、経過などノートに記録し月ごとに朝礼で発表、注意事項と等確認しあい気を付けるようにする。新型コロナウイルスに関しては消毒を毎日実施するとともに手洗い実施確認を行う。散歩マップは見やすい場所に移動する。	看護師による、人工呼吸・A Dの扱い、えびべんの扱い、熱中症対応、アレルギー対応の指導安全委員による、怪我、病気のまとめ報告に対して対策を考える。消毒の徹底は実施してきた。	コロナ予防に関しては消毒の徹底を実施してきた。また嘔吐の対応消毒液の作り方等研修した(看護師により)

3 期		
A 改善 & P 計画	D 実施	C 評価
文字にしたことで、自由に意見がかけたり、ほかの先生の意見が見えたりで効果的であった。良い点を認めるだけでなく、注意点話し合いの題材など提案できるものとなった。	良い点を認めるだけでなく注意点、研究保育をしているだけでは見えていない面も客観的に見えた。一覧で表示することでみんなの思いがみえた	・全員の意見を聞く(見る)という点ではよい機会であったが勤務体制の違い、行事との兼ね合いを考慮していかなければならない。一時間という時間をビデオ視聴に取るのは難しい
・ホームページや活動を写真に掲示しねらいや育ちを記入し家庭にも伝えるようにしていく。	ホームページは見える化を中心に年間計画を立てどのクラスも紹介できるように実施。生活発表会も各家庭2名しか参観できない流れを写真で紹介。乳児も写真で4月~11月、12月~3月に分け展示した	ホームページを見る方が増え園児学者や、子育て広場の参加者が増えた。親御さんの園に対する理解が増えたと感じる。今年度は新型コロナの関係で行事が減ったがP Cの利用は効果的であった。
毎月朝礼の時に怪我の件数や状況等の発表をし、原因分析等話し合う。コロナ予防に関しては消毒の徹底を実施する。特に乳児は玩具を口に入れたり、いろんなところを触るので消毒を最低2階は実施。また嘔吐の対応消毒液の作り方等変更のあったところを再研修(看護師により)	怪我が起きたときは小さい怪我(擦り傷)等も記録しておく。消毒に対してはフリーや担任が実施し記録に記入しておく。手洗い、消毒等コロナ予防が主になり十分注意してきた	毎月朝礼において怪我の件数や状況について発表してきたが細かい分析等はあまりされていない。委員全員が全員集まり分析したり、注意箇所の点検、お知らせ等十分でなかったりした。今後の課題にしたい。

※記入枠は、各園で調整し使用する。

※保育目標から重点努力目標、内容までを、職員で検討し5月10日までに、今年度のまとめは、3月9日までに完成させ保育課へ提出する。